年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	言語学・コミュニケーション表現学コース
入試方式 /Admission Method	外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2024 年 7 月 7 日

解答又は解答例及び出題意図
Answer or example of answer
Intent of the question
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）
（Reasons for not publishing exam questions）

【採点時の観点】

問Ⅰ． 街で見かける多言語表記は社会言語学的観点（言語景観など）からもコミュニケーション研究の観点からも分析可能な事柄である。具体的な例を指摘し、それがどのようなものか適切に描写し、言語学またはコミュニケーション研究の観点から適切な専門用語を使って論じている必要がある。

問Ⅱ．外来語では受け入れ言語の音韻体系の影響でもとの言語の音声形式が変容を被ることがある。音声形式の変容のあり方は受け入れ言語の音韻体系や受け入れた時期により多様である。外来語における音声形式の変容を具体例を挙げ、それを受け入れ言語の正書法ではなく国際音声記号で示すことが求められる。また、どのような音韻体系の性質が音声形式のどのような変容を引き起こしているか説得力のあるかたちで論じることが求められる。

問Ⅲ．コミュニケーション表現学分野の推薦図書にも掲載されている Goffman(1963)の主要な概念について、研究に必要なレベルで理解できているかを問う問題である。概念的に十分理解できているかどうかだけではなく、私たちの日常的活動に対する観察力、日常的活動を当該概念を適切に用いながら論述する記述力を評価した。

【出題意図】

言語学やコミュニケーション研究の諸領域にまたがるテーマを通じて、言語や社会的相互行為を多角的に捉え、理論と事例を結びつけて論述する力を評価するものである。基礎知識に加え、具体例を適切に観察・記述する力、応用的思考力・分析力・表現力も重視している。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	英語教育学コース
入試方式 /Admission Method	一般、外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2024 年 9 月 14 日

解答又は解答例及び出題意図
Answer or example of answer
Intent of the question
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）
（Reasons for not publishing exam questions）

【採点時の観点】

Q1：言語教育の場で学習者に生成 AI を利用させることの利点および難点・問題点を、具体例を挙げながら、明確に述べている。また、このことについての自分の意見を、具体例を挙げながら論理的に記述している。さらに、言語・言語教育・言語と社会などの分野からの関連する理論を適切に引用している。

Q2：第二言語学習において重要な役割を持つ学習者の個人差にはどのようなものがあるか、複数の具体例を挙げながら、明確に説明している。その際、関連する理論を適切に引用しながら、個人の特性がもたらす学習効果への影響について、論理的に記述している。教授法や評価などにおいて、個人差を考慮することが不可欠であることを理解している。

Q3：50 people は複数の人々を表しているが、修飾語が入った場合には不定冠詞は義務的となる。この種の文については、主に「複数の統合説」と「数詞修飾説」が唱えられてきている。それぞれの説を支持する証拠を挙げて、どちらがより妥当な説であるかを論証できるか否かを問うている。どちらの立場に立っても良いが、きちんと議論できていることが重要な観点である。

【出題意図】

英語教育学・英語学の基本的な概念の理解や主な関連理論の知識を問う。また、英語教育や英語学習の具体的な実践の場において、それらの概念や理論をどのように適用できるかを考察する力を問う。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	日本語教育学コース
入試方式 /Admission Method	一般、社会人（一般）、外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2024 年 9 月 14 日

解答又は解答例及び出題意図
Answer or example of answer
Intent of the question
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）
（Reasons for not publishing exam questions）

【採点時の観点】

問Ⅰ：特にスピーチの発表というパフォーマンス評価に適した評価方法が選べているかどうかを問う問題である。具体的な評価方法が 2 つ挙げられているか、その上で、それぞれの評価方法について特徴、利点、評価の観点、実施する際に配慮すべき点が正確、かつ十分に具体的に述べられているかを評価基準としている。

問Ⅱ：言語教育の場で学習者に生成 AI を利用させることの利点および難点・問題点を、具体例を挙げながら、明確に述べている。また、このことについての自分の意見を、具体例を挙げながら論理的に記述している。さらに、言語・言語教育・言語と社会などの分野からの関連する理論を適切に引用している。

問Ⅲ：日本語動詞の否定形（動詞語幹＋ない）は、有核動詞の語末から 2 モーラ目と 3 モーラ目の間にアクセント核が配置される点で例外的である。この例外的アクセント核配置を説明するために提案されている 2 つの分析、すなわち、形態素境界がアクセント移動を阻止する分析と否定形態素末のモーラの韻律外性による分析を正しく解説し、分析の優劣について説得力を持って論じることが求められる。

問Ⅳ：文法現象の背景にある文法構造を指摘することを求める問題である。直接受動文と間接受動文の違いについて、対応する能動文とどのような関係にあるかを説明する。その際指定した用語を適切に使う必要がある。間接受動文がどのような場合に成立するのか（成立しないのか）、対応する能動文の動詞と主語に着目して説明する。問題文の例だけでなく、自ら考えた例に言及して説明できればなお良い。

【出題意図】

本研究科のアドミッションポリシーに沿い、本研究科で研究を行うために必要な言語能

力および日本語教育学の基本的知識を持ち、この専門分野において研究を行える、または行えるようになる資質（問題の発見能力、論理的考察力、情報整理能力など）を有しているかどうかを判断できる出題をする。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	言語学・コミュニケーション表現学コース
入試方式 /Admission Method	一般、社会人（一般）、外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2024 年 9 月 14 日

解答又は解答例及び出題意図
Answer or example of answer
Intent of the question
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）
（Reasons for not publishing exam questions）

【採点時の観点】

問Ⅰ．文の構成要素である名詞句は主語、目的語などの統語機能（文法関係）を担うとともに動作主、対象といった意味役割を担っている。出題された文の統語機能（文法関係）と意味役割を正確に指摘することが求められる。また、出題した例文は名詞句外所有構文（所有者昇格構文）でもあるため、名詞句の間の意味関係についても説明できることが求められる。従属節内の要素であることの影響を指摘できていればなお良い。

問Ⅱ．日本語動詞の否定形（動詞語幹＋ない）は、有核動詞の語末から 2 モーラ目と 3 モーラ目の間にアクセント核が配置される点で例外的である。この例外的アクセント核配置を説明するために提案されている 2 つの分析、すなわち、形態素境界がアクセント移動を阻止する分析と否定形態素末のモーラの韻律外性による分析を正しく解説し、分析の優劣について説得力を持って論じることが求められる。

問Ⅲ.「言語記号の恣意性」とは、「シニフィアン」と「シニフィエ」の関係が本質的に必然ではなく、恣意的であるという立場を示す。オノマトペは一見その例外のようだが、完全な例外ではなく、相対的であると見るべきである。つまり、動機づけられた性質を持ちつつも、言語体系内の約束に依存しており、完全に非恣意的とは言えない。以上を踏まえ、適切な例を挙げて解答できているかを問うている。

問Ⅳ．50 people は複数の人々を表しているが、修飾語が入った場合には不定冠詞は義務的となる。この種の文については、主に「複数の統合説」と「数詞修飾説」が唱えられてきている。それぞれの説を支持する証拠を挙げて、どちらがより妥当な説であるかを論証できるか否かを問うている。どちらの立場に立っても良いが、きちんと議論できていることが重要な観点である。

問Ⅴ．コミュニケーション学の基本概念の説明を求める問題。回答のポイントは、①ベイトソンの定義をきちんと理解しているか、②単なる知識ではなく、具体的な日常会話において当該概念を適切に適用した事例を示すことができるか、という点である。①についてはベイトソン自身の用いた例を引用して説明しても良いが、②ではあくまで自分自身の理解の程度を示す上で、なるべく具体的かつ日常的な会話例を作例でも良いので示す必要がある。

問Ⅵ. 詩を読んでその形式的特徴を分析し、それを詩の全体も含めた展開やテーマなどのコンテンツの理解と連動させ、かつ一連の説明を適切な言葉で叙述するという表現分析の基盤となる能力を考査した。採点時の観点は、詩の形式的な特性を理解できるか（形式を分析する力）、それを詩のテクストの内容と関連づけることができるか（コンテンツを解釈する力）、上記を適切な文章で叙述できているか（表現力）。

問Ⅶ. ポライトネス理論の中核を成す「ポジティブ・フェイス」についての理解度を測る問題。単なる教科書的記述を暗記しているだけではブラウンとレヴィンソンの着想を辿ることはできないので、まずポジティブ・フェイスが関わる具体的な事例を想定し、それについて問題文に示す二つの説明がどのように妥当しているか、さらにはどのようなコンテクストで妥当しなくなるか、の両面からしっかりと考える必要がある。

【出題意図】
言語学やコミュニケーション研究の諸領域にまたがるテーマを通じて、言語や社会的相互行為を多角的に捉え、理論と事例を結びつけて論述する力を評価するものである。基礎知識に加え、具体例を適切に観察・記述する力、応用的思考力・分析力・表現力も重視している。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	英語教育学コース
入試方式 /Admission Method	外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2025 年 2 月 1 日

解答又は解答例及び出題意図
Answer or example of answer
Intent of the question
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）
（Reasons for not publishing exam questions）

【採点時の観点】

Q1：第二言語学習においてインプットとアウトプットが重要であることを理解し、教室活動の中で両者をどのように組み合わせることができるか、具体的な方法を挙げている。例として挙げる教室活動の説明の中で、インプットとアウトプットの組み合わせ方や期待され得る学習効果が明確に述べられている。

Q2：第二言語学習における「気づき」のプロセスの仕組みを、関連する理論を適切に引用しながら、明確に説明している。第二言語学習ではどのような種類の「気づき」があるか、適切な具体例を挙げている。また、第二言語教育において実践できる「気づき」を促すことに効果的な教室活動の例を、具体的にわかりやすく説明している。

Q3：英語における-ly 副詞は、文法的機能や意味的役割は多様であり、いくつかの主要なタイプに分類することができる。たとえば、様態副詞、頻度・程度副詞、評価・判断副詞、叙述副詞、時間・場所副詞、接続的副詞などの分類が可能である。それぞれに具体的な例文を添えて説明できるかを問うている。

【出題意図】

英語教育学・英語学の基本的な概念の理解や主な関連理論の知識を問う。また、英語教育や英語学習の具体的な実践の場において、それらの概念や理論をどのように適用できるかを考察する力を問う。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	日本語教育学コース
入試方式 /Admission Method	一般、外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2025 年 2 月 1 日

解答又は解答例及び出題意図
Answer or example of answer
Intent of the question
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）
（Reasons for not publishing exam questions）

【採点時の観点】

問Ⅰ：提示されている例を引用する際に「程度の副詞の追加」、「倒置」、「受身化」など、適切な用語を使い、「慣用句は意味と形の関係が固定化していて文法的な操作ができない（できない場合が多い）」という特徴を説明できているかどうかを見る。2. 提示されている例の容認度の違いから、「油を売る」と「ヤキモチ(焼餅)を焼く」という 2 つの慣用句の固定化の程度の違いを論理的に説明できているかどうかを見る。

問Ⅱ：日本語の助数詞は先行する数詞の音形により形態音韻論的交替を被る要素である。単独では[h]で始まる音が[p]や[b]で実現する場合があることについてその条件を正しく指摘し、適切なかたちで定式化もしくは文章で説明することが求められる。また、この問題では数詞「4」と助数詞が組み合わされた場合の例外的な振る舞いについても指摘し、例外の扱い方についても論じることが求められる。

問Ⅲ：オーディオ・リンガルでパターン・プラクティスが重視される理由について、行動主義心理学、構造主義言語学、反復的口頭練習の重視などの背景を踏まえて説明できること。コミュニカティブ・アプローチでインフォメーション・ギャップが重視される理由を意味交渉や真正性、言語運用ストラテジーの重視等の背景を踏まえて説明できること。存在文を例に特徴を押さえた練習事例を説明したうえで、期待される効果と教授時の留意点を具体的・整合的に述べていることを求める。

問Ⅳ：第二言語学習における「気づき」のプロセスの仕組みを、関連する理論を適切に引用しながら、明確に説明している。第二言語学習ではどのような種類の「気づき」があるか、適切な具体例を挙げている。また、日本語教育において実践できる「気づき」を促すことに効果的な教室活動の例を、具体的にわかりやすく説明している。

【出題意図】
本研究科のアドミッションポリシーに沿い、本研究科で研究を行うために必要な言語能力および日本語教育学の基本的知識を持ち、この専門分野において研究を行える、または行えるようになる資質（問題の発見能力、論理的考察力、情報整理能力など）を有しているかどうかを判断できる出題をする。

年度 /AY	2024 年度実施
研究科 /Graduate School	言語教育情報研究科
課程 /Program	修士課程
専攻・コース等 /Major, Course	言語学・コミュニケーション表現学コース
入試方式 /Admission Method	一般、外国人留学生入学試験
試験科目 /Exam Subject	学科試験
実施日（試験日） /Exam Date	2025 年 2 月 1 日

解答又は解答例及び出題意図
Answer or example of answer
Intent of the question
（試験問題自体を公開しない場合はその理由）
（Reasons for not publishing exam questions）

【採点時の観点】

問Ⅰ． 日本語動詞のテイル形は進行と結果の両方を表す。いずれの解釈になるかは動詞の語彙的アスペクトから予測できる場合が多いが、主体変化動詞の中にはテイル形が進行にも結果にも解釈できるものがあり、いずれの解釈になるかが動詞以外の文の構成要素に左右される場合がある。この問題では動詞以外のどの要素が文の文法的アスペクト解釈に影響を与えるか指摘し、その要素がどのように解釈のあり方に貢献するかを論じることが求められる。

問Ⅱ．英語における-ly 副詞は、文法的機能や意味的役割は多様であり、いくつかの主要なタイプに分類することができる。たとえば、様態副詞、頻度・程度副詞、評価・判断副詞、叙述副詞、時間・場所副詞、接続的副詞などの分類が可能である。それぞれに具体的な例文を添えて説明できるかを問うている。

問Ⅲ．比喩表現を分析する上で必須となる認知言語学の基礎概念を用いた具体的事例の説明を求める問題。特にメトニミーと参照点の関係は認知言語学の基本的知識の一つであり、それを理解していれば当該の二つの比喩表現の認知メカニズムの共通点と相違点を適切に記述・説明することができるはず。なお、あくまで「鼻マスク」と「あごマスク」という言語表現についての問いであり、その他の表現（例：鼻出しマスク）の説明は求めていない。

問Ⅳ．同じ題材を扱う小説とマンガの表現比較によってテクスト分析能力とセンスを問うものである。両者で何がどのように異なるのかを具体的に抽出する解読力、その違いがそれぞれの表現メディア（媒体）のどのような長所を活かしているのかを分析する構想力、それらを文字のテクストの引用や図像テクストの説明などを通して適切な文章で他者に伝える表現力の三点を主な採点基準とした。

【出題意図】
言語学やコミュニケーション研究の諸領域にまたがるテーマを通じて、言語や社会的相互行為を多角的に捉え、理論と事例を結びつけて論述する力を評価するものである。基礎知識に加え、具体例を適切に観察・記述する力、応用的思考力・分析力・表現力も重視している。